

土岐明智氏ゆかりの城

妻木城



曲輪Ⅲから土岐市街を望む



曲輪Ⅱ



巨石群の一部



曲輪Ⅰの石垣



登山口・御殿跡



くさび跡花崗岩



駐車場入口
県道19号沿い名岐国際ゴルフ
倶楽部入口～林道

登山の際の注意事項
妻木城跡は、山城です。
動きやすい服装と、靴を着用してください。
飲み物を持参してください。
季節によっては、ヘビやハチに遭遇しますので、注意してください。



1 登山口
御殿跡
土屋敷跡

県道388号

1 御殿跡・土屋敷跡
旗本妻木氏の陣屋や住居があり、北側には家臣団の屋敷が続いています。

2 曲輪Ⅲ
土岐市北部、多治見市街地を一望できる見晴らしの良い場所です、三の丸とも呼ばれています。

3 曲輪Ⅱ
曲輪Ⅰの一段下に位置し、二の丸とも呼ばれています。

4 曲輪Ⅰ
山頂部に位置し、本丸とも呼ばれています。廃城後の江戸時代中頃には八幡神社が建立されました。

5 伝旗立岩
曲輪Ⅰの南西隅にある高さ5m以上ある巨石です。旗立岩の伝承があります。

6 巨石群
関ヶ原の戦いとき、西軍の攻撃に備えて堀を作る工事により、花崗岩の大岩が露出したと考えられています。人が積み上げたような姿ですが、自然に出来上がったものです。

7 くさび跡の残る花崗岩
岩の除去を断念したと思われるくさび跡が残る巨石が残されています。

8 井戸跡
妻木城内に2か所あった井戸の一つで、土壁に囲まれています。

※曲輪：石垣や土壁などで、城の内と外を区画した区域

妻木城は、標高409mの城山の山頂に築かれた山城で、妻木郷を治めていた土岐明智氏、その一族である妻木氏が整備しました。

その北麓には、旗本妻木氏の陣屋や住居があった「御殿跡」、さらに北側には家臣団の屋敷があった「土屋敷跡」の遺構が残されています。その貴重な遺構は、岐阜県史跡にも指定されています。

築城の時期については定かではありませんでしたが、近年の発掘調査によって戦国時代に築城されたことが明らかになってきました。この地方は戦国時代、武田氏と織田氏の勢力の接点にあたり、織田方の城として防備が整えられたものと考えられるようになったのです。

妻木氏は、関ヶ原の戦い(1600年)に徳川家康に味方し、その戦功により土岐郡内7500石の交代寄合(参勤交代をする旗本)として、妻木陣屋を拡張整備しました。しかし、万治元年(1658年)領主の急死により後継ぎが無くなり、妻木城は取り壊されました。

光秀に一番近い一族 妻木氏

来年1月から放送が開始されるNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀。その光秀の出生からの半生は、軍記物語・伝説・逸話などに残っているだけで謎に包まれています。その中で妻木氏は、光秀の近親として史料で確認できる数少ない存在です。

光秀の伯父 妻木(明智)藤右衛門広忠

江戸幕府が編纂した『寛永家譜』や『寛政重修諸家譜』には、「藤右衛門広忠は、天正10年（1582年）明智光秀が山崎の合戦で戦死した後、西教寺で切腹した。藤右衛門広忠は光秀の伯父である。享年69歳 法名宗真」と記されています。このことから、広忠は最も近い親族であったと言えます。

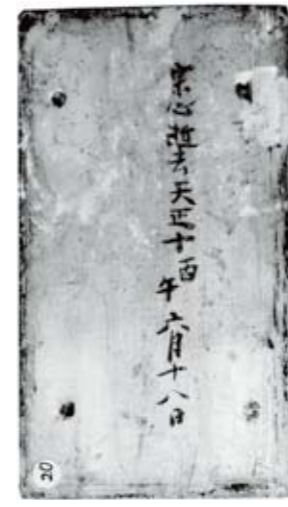
藤右衛門広忠の位牌



【写真右】明治時代に作られた現在の位牌。「清閑院殿一友宗心居士」と刻まれている。宗心は広忠の法名
【写真左】古い位牌の台座

光秀の妻 照子(ひな)

光秀の妻は妻木氏出身で照子という名前が広く知られていますが、信ぴょう性のある史料は発見されていません。江戸時代の書物『明智軍記』、『綿考輯録』には、「妻木勘解由左衛門範照の女」と記されており、そこから照子という名前が使われるようになったのかも知れません。



古い位牌の底面
「宗心逝去天正十年丙午六月十八日」と記されている。ちなみに、天正十年は「丙午」ではなく「壬午」です。（書かれた当時の誤記による）

光秀の妹 ツマキ(妻木)

近年、織田信長と明智光秀の接点として、信長の側室であり、一説には、ブレーンとして重要な役割を担っていたともいわれる「ツマキ」の存在が注目されています。

ツマキは、安土桃山時代の日記『兼見卿記』に「妻木惟向州妹一惟向州光秀」と記されており、これは光秀の妹はツマキであるということです。また、室町時代から江戸時代初期の日記『多門院日記』には、「去る7日か8日頃か、光秀の妹のツマキが死去した。ツマキは信長から寵愛を受けていたので、光秀は比喩ものにならないほど落胆した。」と記され、妹・ツマキの存在で保たれていた信長と光秀の関係が、その死によって崩れていき、10か月後に起きる本能寺の変につながったのではないかとという説もあります。

トピックス

土岐明智氏初代 土岐明智頼重665回忌

頼重は、暦応2年（1339年）祖父美濃守護土岐頼貞の所領であった妻木郷などを相続し、文和3年（1354年）に崇禅寺を創建し、翌年9月10日に死去しました。頼重の命日である9月10日に665回忌の法要が、崇禅寺にて行われました。



妻木八幡神社

八幡神社の創建は、一説に元応元年（1319年）土岐明智頼重が創建したといわれています。妻木城主の氏神として手厚く保護されてきました。流鏝馬が行われる広い参道や68段の石段の上に建つ本殿は、妻木城主の栄華が偲ばれます。



市指定文化財 崇禅寺総門
禅宗様（唐様）を多く用いた室町時代の作風で、規模の大きな茅葺きの棟門です。



県指定重要文化財 夢想国師筆 果山 条幅
崇禅寺を開山した果山禅師の法兄夢窓国師が崇禅寺開山を期して果山に宛てた書です。



八幡神社参道
流鏝馬神事が行われる参道は、130mの坂が続きます。



崇禅寺境内から望む妻木城跡
総門越しの妻木城跡は、悠久のときを感じさせる撮影ポイントです。



位牌堂の天井絵（一部）
位牌堂には、68枚の天井絵があり、その中には、「今でしよ」の林修先生の祖父林雲鳳の絵もあります。



市指定文化財 八幡神社本殿
上空から見た本殿。和様と禅様をたくみに構成する折衷様式です。



県指定重要文化財 八幡神社の絵馬
慶長14年（1609年）8月、妻木城主妻木家頼の弟佐太郎頼久によって奉納された左右一対の絵馬です。





ダンボールで鎧づくり



見学者に説明



歩道整備

妻木城跡・土屋敷跡の保存運動を通して、住民が郷土を愛し、郷土の歴史を誇りに思う土壌づくりを目的に、平成7年に設立されました。

現在の会員は約150人で、妻木城跡・土屋敷跡の草刈りや登山道の整備、妻木城跡を訪れる見学者の案内、歴史講座の開催などを行っています。

妻木城址の会

守る人々

土岐市指定無形文化財 流鎗馬

元和9年(1623年)、妻木城主妻木家頼が武運を祈り、馬を1頭奉納したことが始まりといわれ、毎年10月の第2日曜日に執り行われます。また、その前日の夜には、前夜祭として宵祭りが行われます。

令和元年流鎗馬の日程

10月12日(土)

午後7時～

- ・宵祭り神事
- ・お神楽奉納
- ・日本剣道形奉納
- ・湯立神事

10月13日(日)

午前11時

馬場見せ(最後の練習)

午後1時

本殿にて神事 花馬

お神楽奉納

1時30分 火縄銃実演(妻木小学校)

1時50分 手作り鎧行列

2時 みこし行列

2時30分 流鎗馬奉納

・陣笠・陣羽織3回

・弓を射る儀式

・古式衣装3回



湯立神事

大釜で湯を沸かし、その熱湯を参拝者にふりかける儀式で、その湯を浴びると神徳があるとされています。



火縄銃実演

妻木小学校の校庭で、関ヶ原合戦での妻木氏の故事にちなんで火縄銃の実演が披露されます。

第1回 土岐ふるさと塾の参加者募集

親子で学ぶ「土岐の歴史」～土岐明智氏ゆかりの地 妻木城跡をめぐる～

【土岐ふるさと塾】のねらい

土岐市の未来を担う子どもたちに、豊かな体験を通して「ふるさと土岐市」の伝統・文化・自然・産業を知る機会を提供し、親子で学習や体験を共有することで親子の絆を深めるとともに、土岐市に愛着のもてる子どもを育てる。

日時 11月30日(土) 午後1時～4時

コース・時間配分(妻木城跡・土屋敷跡・八幡神社)

A: 登山コース

土屋敷跡から妻木城跡まで約30分の登山です。結構ハードですが、是非チャレンジしましょう!

崇禅寺(駐車場あり) ————— 土屋敷跡 ————— 妻木城跡 ————— 崇禅寺(アンケート・解散)

B: 林道コース

土屋敷跡から妻木城跡下駐車場まで、自家用車でいきます。妻木城跡まで10分ほど徒歩で登ります。

崇禅寺(駐車場あり) ————— 土屋敷跡 ————— 駐車場 ————— 妻木城跡 ————— 崇禅寺(アンケート・解散)

※解散後、崇禅寺・八幡神社・妻木(しろやま)公民館の特別展・砂防ダム等を見学できます

【雨天時の実施 学習】

崇禅寺 ————— 八幡神社 ————— 妻木(しろやま)公民館

定員 市内在住の小中学生とその保護者20組程度

講師 妻木城址の会会員、美濃陶磁歴史館学芸員

応募方法 生涯学習課に電話、メール syogai@city.toki.lg.jp

(記載事項 子ども氏名 学校名 学年 保護者氏名 住所 電話番号 コース)

締切 10月21日(月) (応募多数時は抽選)

申・問 生涯学習課 (内線361)



申込QRコード



〔価格〕
2000円(税込)

〔取扱場所〕
妻木八幡神社
崇禅寺
妻木公民館で

妻木城御城印

妻木城址の会では、妻木城跡の御城印を授与しています。



流鎗馬

選ばれた6人の男子(妻木小学校5・6年生)が馬を操り、130mの参道を駆け上がります。